

文藻外語大学交換留学 報告書

2019 年度長期交換留学

文化学部文化学科

183116 宗田凜子

2019 年 9 月 3 日から始まったおよそ 10 ヶ月の交換留学が終わりました。留学している最中は 10 ヶ月を長く感じたときもありましたが、終了して思い返してみると、あっという間の台湾生活だったと感じます。特に留学生活後半は新型コロナウイルスの問題もあり、かなり特殊な経験を得られました。

まず、授業について書きます。交換留学生在が毎日受講する中国語の授業「華語中心」以外にも、前期・後期ともに本科生の台湾人と一緒に受講する翻訳系、日本文学、日本文化、ヨガ、韓国語などの科目を 5 コマずつ選んで履修しました。中でも、日本のアニメや映画の中国語字幕を考える授業は、セリフの口語をどのように訳すか、長いセリフを訳すコツなど、新しいことが学べてよかったです。日本語学科の台湾人と一緒に日本文学史も受講しました。日本文学に登場する「天皇」の存在・日本人の天皇に対する意識は、台湾人にとって少し曖昧な部分があったし、日本文学作品にはたびたびレモンが登場するのは何か意図があるのか、など、これから考えてみたいことができた授業でした。また、これまで勉強したことはなかったのですが、韓国語の授業があったので受講してみました。これは第二外国語として本科生が受けているところに参加した形です。文藻外語大学は他にもベトナム語、スペイン語、インドネシア語など様々な第二外国語の授業が、初級クラスから上級クラスまで用意されています。基本的に先生は中国語を使って授業を進めますが、初級クラスの内容は簡単な日常会話や文法なので、ちょうど良い中国語の確認・復習とともに韓国語を勉強できました。さらに、日本語学科以外の本科生もたくさん受講していたため、様々な学科の友達ができるきっかけになりました。華語中心については、これまで留学された方の報告書に書かれてあることと同じように、他の国からの留学生と一緒に楽しく受講できました。授業中話す機会が全員にあり、先生もサポートしてくれるため、良い練習になります。例えば私は日本人なので日本の文化や生活習慣についての簡単な質問を中国語で答える機会が多く、フランス人ならフランスについて中国語で答える機会が多かったです。ここで、外国に対するイメージや、国の特徴などが明らかになることがたくさんありました。特に印象的だったのは服装などをテーマに話していたとき、スケバンの写真を見せながら、あなたもこれを着て学校に行っていたんだよね、と聞かれたことです。また、日本人は家庭より仕事を優先すると聞いたことがあるけど本当なの、と驚いて聞かれたこともあります。華語中心を通して中国語の勉強だけでなく、日本のことを話すにはどう伝えたら分かりやすいのか、外国人が驚く・疑問に思うテーマは何なのか、などが授業中に分かったり、毎日一緒に授業を受けていると、母国語の違いによって話す中国語に癖があることが分かたりしました。留学ならではの発見があったと思います。

次に生活について書きます。私が驚いたのは、留学生は割と自由な時間が多いことです。日本人の中国語のレベルと本科生の日本語のレベルの関係や、授業の内容などから、留学生の履修登録には制限もあります。私が華語中心以外に5コマしか履修していないように、毎日授業が詰まっているという交換留学生はとても少ないです。その分自分で時間配分をする必要がありました。勉強はもちろん、読書をしたり、ぼんやりしていたことをしっかり考えたりする時間も作れました。時間配分以外にも、台湾生活は自分で決めることに溢れていたように思います。小さなことなら例えば、台湾では自炊できる環境がなかったため毎日の栄養、食事です。他にも、限られた留学生生活をどう過ごすか、週末はどうするか、生活習慣など、外国で少しでもストレスを減らして生活するために考えることがたくさんありました。私は決断することが苦手な部分がありましたが、自分で考えて決める局面が多かった台湾生活は良い経験になりました。以前より決断することが怖くなくなったように思います。また、私は学校にある寮で生活をしていました。寮で友達もできましたし、費用の面でも良いところはあります。しかし、4人一部屋でバストイレも共有していると、どうしても衛生概念が合わなかったり、生活習慣の違いもあつたりするため、始めから寮に住まない選択をしてもよかったのかもしれないと考えることも少なくありませんでした。

今回の留学を振り返ると、新型コロナウイルスのことが思い出されます。学内・寮内でのマスク着用の徹底はもちろん、学校に入るにはサーモグラフィでの検温スペースを通らないといけなかったり、台湾における新型コロナウイルスの波が少し落ち着いた5月までは、気温30度を超える日々の中、学内・寮ともにエアコンを使ってはいけなかったりと様々な対策が取られていました。学外でも、バスや地下鉄に乗る際にマスクを着けていなかったら罰金、飲食店が感染防止対策で使い捨ての紙皿を使って料理を提供し始めるなどありました。台湾は新型コロナウイルスに対しての政府の対応がすばやくしっかりしていたと言われていています。例えば、いち早く外国人の入境を制限しました。マスク販売についても、国が台湾中のマスクを管理し、2週間に1回、薬局などで保険証や居留証を見せることでマスクを購入できるというシステムが取られていて、このおかげでマスクが売り切れて手に入らないということはありませんでした。やがて政府から、マスクを着けて、ソーシャルディスタンスを取りながら国内観光を楽しみましょうといった通知が出て、5月ごろからはコロナ前のような賑わいも戻ってきています。台湾留学中に感染することがないように、留学生活後半は外出を控える、例え周りの人が遊びに行っても不安だと思ったら断るなど、これまで最も自己管理が必要な期間でした。以前は何となく周りに流されたり、合わしたりしながら行動してしまうことがありましたが、今回外国で迎えたコロナ禍の中自分で考えて行動することができたのは、これからの生活に役立つ自信となりました。

台湾人の学生と過ごして、たくさん勉強している姿に刺激を受けました。文藻外語大学では、自分の専攻している言語と英語に加えて何か国語も話せるという学生がほとんどです。

一緒にプレゼンテーションをする機会もありましたがその準備も丁寧で、授業中も質問や意見を述べる学生が多く、日本で勉強していた環境と比べてしまいました。

また、歴史に対する興味の持ち方にも違いがありました。台湾人の友達は皆歴史に詳しく、自国だけでなく世界史も完ぺきで、それを外国語で説明することもできます。台湾は日本統治時代がありましたが、その歴史を考える機会もよくありました。ある華語中心の時間に先生が日本統治時代について話をしました。台湾人の中でその歴史を何度も考え、今の台湾と日本の関係があるということを言っていました。台湾には日本を好きだと言う人、よく知っている人が多かったです。街には日本のものがたくさんあります。しかし台湾と比べて、日本の街に台湾をイメージできるものの種類は少ないと感じます。台湾人の友達はよく「台湾の素敵な場所を教えてあげるね」と言って教えてくれました。日本で台湾は親日国だと言われていますが、台湾に来て台湾と日本の歴史の話を聞いてから、日本人の台湾に対するイメージや台湾旅行に行く動機が親日国だからというよりは、台湾のことを知っている日本人が増えるといいと考えます。

台湾は自由・民主主義という価値観がとても大切にされていることが分かりました。留学中に台湾の総統を決める選挙があったのですが、現在「一国二制度」に揺れる問題もあり、将来のため年代関係なくたくさんの人が投票に行っていました。投票に行く人の多さから渋滞している道もあったほどです。若者の中でも選挙について意見交換がされ、年齢の関係で投票権がまだないルームメイトは悔しがっていました。台湾で生活してみて、歴史や現在のこと、政治についても一度勉強しようと思直すことができました。

私が留学を志願した動機は、中国語の授業で聞いた先輩の留学報告が印象に残ったからという部分が大きいです。後は中国語の授業が楽しかったこと、台湾の原住民族の音楽を聴いていたこと、想像より費用がかからないことです。大学に入学したときは正直留学することなど考えてもいませんでした。しかし留学して、日本にいと気が付かない・知らないであろうことに触れることができました。半ば勢いで決断したところもありましたが、これまで決断することの苦手だった自分が決断した台湾留学を終えられたことは、これからの自信になります。日本を出て実際に行ってみないと知れないことがあると分かったので、自分で確認する、決断するということの大切さを感じました。

以下に写真を添付して、2019年度文藻外語大学交換留学最終報告書とさせていただきます。留学を支えてくださったすべての方々に感謝いたします。ありがとうございました。



これは豆花という、台湾の伝統あるスイーツです。安くてほんのり甘くて美味しいです。トッピングは自由によべます。大学の近くにお店があったため、友達とよく食べました。



これは花蓮という地区に行った際に撮りました。花蓮は景色がきれいな観光スポットです。散歩をしていると、昔日本語教育を受けていたという女性の方が、日本語で声をかけてくださいました。



これは年越しの様子です。台湾は旧正月ですが、年越しカウントダウンイベントはたくさんあります。ショッピングモールで開催された年越しライブに参加したら、年が変わった瞬間に紙吹雪が降ってきました。周りにいた見知らぬ台湾人の皆さんとおめでとうを言い合いました。



これらの写真は、台北にある台湾原住民族の博物館と、その中の展示物にあった原住民族の伝統衣装です。



これは、私が一番通ったお店のチャーハンです。学校近くにあります。家族経営のお店で、とても親切にしてくださいました。世間話や趣味の話もできるようになり、様々な話をしました。また台湾で会う約束もできました。